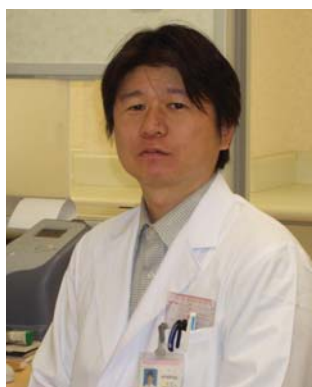


# ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

## 4月より14名の職員が 新たに加わりました。

代表で野村泉先生にご挨拶を  
お願いしました。



野村 泉

### はじめに

はじめまして、4月より三重県厚生連鈴鹿厚生病院に着任しました野村泉と申します。私以外にも、職員14名が鈴鹿厚生病院のスタッフとして新たに加わりました。

僭越ながら、代表でご挨拶させていただきます。

### 精神科医としての12年間

私は94年に三重大学医学部を卒業し、卒業と同時に三重大学附属病院の精神科に入局しました。1年目の精神科研修を大学で受けて、翌95年より三重県立志摩病院に赴任となり、2年間を志摩病院精神科で過ごしました。97年からは再び三重大学に戻り大学院を経て助手を務め、現在に至ります。精神科医

としての12年間は、諸先輩方と比べれば決して長いとは言えず、臨床経験も華やかなものではありません。しかし、それぞれの病院で様々な患者さまと出会えたこと、先輩や後輩、同僚医師の助言を受け、看護師や検査技師をはじめとする多くの方に助けを頂いて治療に打ち込んだ経験は、精神科医としての私にとって何ものにも代え難い宝です。治療の中で回復していかれた患者さまの記憶は、これからの治療に向き合う上での、私の勇気の源です。

### 知識と経験を活かして

鈴鹿厚生病院で働き始めるにあたって、初心を忘れることなく研鑽を積んで参りたいと考えています。患者さまの置かれている状況を心情も含めて理解し、問題点の整理を行った上で、患者さまが主体的に問題

の解決を図れるように自らの知識と経験を活かしていきたいと思えます。それは、潮の荒い難所で船に乗り込み、船を港まで安全に導く水先案内人に似ているかもしれません。あくまでも患者さまやその家族の治癒力を阻害することなく、薬物療法をはじめとする治療の中で、小さな工夫と無理のない努力で皆が納得のできる少しでもいい状態を目指していきたいと考えています。また、診察室での出会いを偶然の織成す貴重な出会いと意識して、人との関わりを大切に丁寧な診察を心掛けたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号  
連載!

テーマ

### 統合失調症の 作業療法について

「つぎはお茶碗を作ろうと思うんです。」  
「なんでまたお茶碗なの?」  
「自分でつくったお茶碗でご飯を食べたら美味しい  
かなって思って…」よくある陶芸室での会話です。

今回の講師の紹介



作業療法士  
丸山哲雄

私たちは、朝起きて夜寝るまでの間にさまざまな作業をしています。“生きること”は“作業すること”といっても間違いではないでしょう。作業活動の中でひとや物に関わりながら、遊び心を育み、より良く生きるために仕事し、ひととしての行動や考え方、感情や技能を学んでいくのだと思います。

#### ● 作業療法ってなに?

精神障害を持つ方が主体的で充実した生活ができるよう、具体的で現実的な作業活動(遊び、創作的なものから日常生活に関連するものまで)を利用して、精神機能の向上や対人関係能力の改善、作業能力の改善をめざします。

#### ● 作業療法の効果

一般には、スポーツなどの激しい活動をすれば気分が発散されたり、伊勢型紙のような細かな作業をすれば集中力を高められるといわれます。工程が多く難しい作業なら思考力も高められるでしょう。しかし、作業活動は単に作業の内容だけではなく、その作業を行っている場所や時間、席を共にしているスタッフや他のひとなどによって目的も効果も大きく異なってきます。また作業をしている本人の意識によっても効果は異なってくるといえます。

#### ● 作業療法の実際

精神科における作業療法の援助・指導は、作業活動という具体的な体験を媒介にして、スタッフや場を共にするひととの関わりを通して行われます。作業療法が効果的に作用するには作業活動における他のひとを含めた環境や、援助・指導する側の関わり方が大きく影響します。たとえば、単純で誰もがやったことのあるようなパズルや書道といった作業も、それを行うための行為・動作以外にさまざまな要素を含んでいます。作業のもつ精神的機能に対する一般的な効果だけに注目し作業活動を行ってしまうと、作業自体に意味がなくなり、興味・関心が向けられなくなります。作品を作り上げていくプロセスの中で、作品の工程だけでなく、その場における感じ方や対人関係の持ち方など、「そうか」とか「ああ、これでいいのか」「これでいいんだ」といった気づきや納得がえられることが大切だといえます。

診察室から

### ストレスから身体症状だけが 目立って生じる場合があります。

40歳代の男性。  
身体症状があり内科に通院中。  
しかし異常が認められず、内科医に  
勧められて当院を受診された。

医師:どうされましたか?

男性:内科の先生にこちらを受診するように  
勧められたので来ました。

医師:どういった事でしょうか?

男性:動悸や吐き気が続いていて、何度か  
内科を受診して色々検査してもらったの  
ですがどこも異常はないというのです。こ  
んなに身体に症状があるのに何も無いんで…。  
それで内科の先生は「ストレスはありませんか?」  
と言うのです。うつ病の可能性があると。

医師:心当たりはありませんか?

男性:確かに最近仕事が忙しくて、ストレス  
がないわけではありませんが、これまでも頑  
張ってやれて来ましたし…。

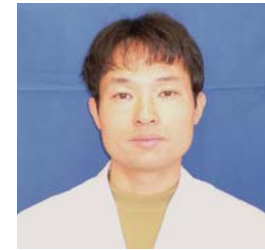
医師:無理をされていませんか?

男性:無理でもやらないわけにはいきませ  
んし…。

医師:気分は落ち込んだりしませんか?

男性:特にそんなことはありません。だから周  
りの人にも「そんなに普通に喋って動けて  
いるのにならう病なわけがないだろう」と言わ  
れます。

医師:普通に喋って動けているからうつ病で  
ないとは限りません。身体症状だけが目立



林 信行医師

つという場合もあります。

男性:全く自覚はないのですが…。

医師:身体の病気ではないと完全に決めつ  
けるわけにはいきませんが、身体的な診察・  
検査で異常が見当たらないとすると、心因  
性の症状である可能性は充分あります。こ  
ちらでも通院治療をさせて頂こうと思っ  
ていますが、いかがですか?

男性:分かりました。通院して様子を見てみ  
ます。

#### 主治医から

ストレスから身体に様々な症状が生じ得  
ます。身体症状だけが目立つ場合、身体  
的疾患による症状と区別が付きにくい  
のですが、身体的な診察・検査で異常が見  
当たらない場合、ストレスによる症状で  
ある可能性が考えられます。そのような場合、  
他科からの紹介で受診されるケースはよ  
くあります。

## スマイリー・バトンリレー

vol  
7



### 栄養科

栄養科のスタッフ

栄養科では、3人の管理栄養士が患者さまの状態にあった食事を提供できるよ  
うに毎日取り組んでいます。食事は私たち人間が生きていくうえで大切な行動  
で、栄養状態が悪ければいろいろな合併症や感染がおこることもあり、よいお薬を飲  
んで治療をすすめていても治療がすすまなかったりすることもあります。管理栄養士  
の仕事は、毎日の給食を提供することだけではなく、個々の患者さまの状態にあった  
食事内容を検討し、患者さまの栄養状態を保ち病気の治療のサポートをすることが  
重要です。そのために栄養科では管理栄養士以外に調理師、給食員19人が一体  
となって患者さまの病気の治療をサポートしています。また、管理栄養士は外来患者  
さまの栄養相談もおこなっていますので、お気軽にご相談ください。

## ほ っ と ニ ュ ー ス

### ● 第1回院内運動会が開催されました。

新しく整備された鈴鹿厚生病院のグラウンドにおいて、去る5月17日(水)に15年ぶりということで、リセットされた第1回院内運動会が行われました。ゴールデンウィーク明けからぐずついた天候が続き、心配されていた当日も曇り空の下で決行しました。しかし途中から雨が降り始め、外での競技は午前中に中止することになり、午後より体育館で職員による仮装行列と残りの競技「玉入れ」を行い、アトラクションには職員によるバンド演奏もあり大いに盛り上がりしました。今回はテーマを「みんなで楽しもう」ということで東病棟・西病棟の東西対抗とし、結果は接戦にて110点对100点で西病棟の勝利となり、職員や患者さまの普段にはない明るい表情や張り切りぶりに楽しい雰囲気運動会を終えることができました。



### ● 盆踊り大会開催のお知らせ

とき:8月3日(木) 17:00~

(雨天時10日(木)に順延)

場所:鈴鹿厚生病院内グラウンド

『みんなで楽しく踊ろう!!』をテーマに今年も楽しいひと時を過ごしたいと考えております。



昨年の盆踊り

### ● 病院祭開催のお知らせ

鈴鹿厚生病院、恒例の病院祭が今年も10月14日に開催されます。今回も昨年同様「共に歩もう」をメインテーマにしました。そして患者さまや地域の皆さまと職員が一体となり「新しい風を感じてII」をサブテーマとし、準備を進めています。日々の生活にスタックのようなメリハリをつけていただけたらと思います。今年の内容として、バザー・模擬店・作品展示・創作体験コーナー・院内活動発表・ゲームなど、まだまだたくさん計画しております。また、今年より新しく取り入れました、職員による「よさこい踊り」は、4月より練習を行っています。当日は素晴らしい成果が期待できると思っています。このような活動を通し、人と人との関わりをを広げ仲間をつくらせたり地域の方々との交流を深める場になっていけたらとこころより思います。



昨年の病院祭の様

## 「すずわの家」



**DATA** 住所:鈴鹿市寺家11-16  
TEL:059-386-9490

すずわの家では、社会復帰に励んでいる当事者の方に働く場所と安心して過ごせる憩いの場を提供する事を目的として、平成2年4月に開所しました。一日に約10数名のメンバーが通所しています。主な仕事内容は、自動車のハーネス加工、病院のガーゼ、包帯の再生作業、箱の清掃、福祉の店パレットの運営などを行っています。

また週に2回ほどベルの会の方にも来て頂いたり、鈴鹿厚生病院からも職員の方が作業ボランティアとして来て頂いています。住み慣れた地域の中で、自分らしく生活していくことを目指して、みんなで頑張っています。皆さまも一度、家庭的な雰囲気の作業所に遊びに来てみて下さい。

### <一日の流れ>

時間	内容
9:00~	ミーティング・ラジオ体操
9:00すぎ~12:00 (途中休憩)	作業
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	作業、終了後に掃除・日誌記入

### ●外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	山本
	再診	小野	西浦		高山	西村
	再診					

### 編集

### 後記

いよいよ夏ですね。ジメジメした梅雨も明け皆さまいかがお過ごしですか?今回は、病院祭などについて、お知らせいたしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたいと考えています。本誌へのご感想や、こうしたことを取上げてほしいなどのご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

### 理念

### ささえあい、ともに生きる

#### 基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
  - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
  - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
  - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

「Live Withすずか」は、当院の理念である“ささえあい、ともに生きる”からネーミングしたものです。

今後も、病院の紹介・精神科疾患への理解・メンタルヘルスなどの情報を発信してまいります。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402 Eメール・info@skh.miekosei.or.jp